

事業戦略

日立建機グループの事業ポートフォリオは、油圧ショベルを中心とした新車販売事業と、部品・サービス事業を中心としたバリューチェーン事業に区分されます。それぞれの事業において、資源循環型経済に寄与するビジネスモデルを展開しています。

新車販売

新車販売は、大きさ別にコンパクト、コンストラクション、マイニングの3つに区分されています。メイン機種は油圧ショベル、ダンプトラック、ホイールローダの3種で、これらでお客様の現場における建設機械のおよそ6割をカバーします。

私たちがめざしているのは「オープン」であり「デジタル」です。

フルラインをめざしているわけではありません。お客様のニーズは、複数のメーカーの機械を一括でマネジメントしたいということにあります。私たちは、オープンにパートナーと組み、デジタル技術を最大限に活用して、「ソリューションプロバイダー」としてフルラインアップのメーカーとは異なるアプローチで価値を提供していきます。

※ 新車の区分の詳細については、P61-62「ビジネスユニット制の機能」参照

ソリューションプロバイダーへの転換



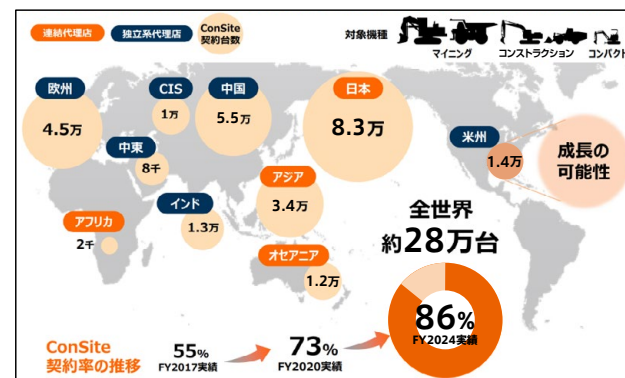
バリューチェーン事業

■部品・サービス

サービスソリューション「ConSite（コンサイト）」は、お客様の建設機械の稼働データに基づいて、機械のメンテナンスや部品交換などを提案し、機械の安定稼働に貢献しています。2013 年から展開を開始し、現在ではConSite の契約台数は28万台（2025 年3月末時点）にも上ります。定期レポート・緊急アラート配信の機能だけでなく、さまざまなアプリケーションを拡充することで、お客様に対する提案力を強化し、部品・サービスの売上収益の拡大を実現してきました。

コンパクト・コンストラクションは、機械の稼働台数が多いため、稼働データを活用して効率的に保守・メンテナンスすべき機械のターゲティングを行っています。サービス員がターゲティングした

全世界 28 万台をカバーする ConSite



事業戦略

機械を点検する際に、点検レポート作成アプリ「ConSite Shot」を用いて、予防保全や部品交換・修理を戦略的に提案しています。

マイニング機械は24時間365日稼働するため、一層の信頼性と耐久性が求められます。サービス提案活動においては、1台1台きめ細かく点検し、稼働データ・摩耗測定などデジタル技術を活用し、部品・修理を提案しています。

このような取り組みを今後も加速させ、部品・サービスの売上収益を拡大させていきます。

■再生

当社の再生事業は、1960年代から始めて50年以上の歴史があります。使用済み部品を再生して市場に供給する部品再生は、長い年月をかけてラインアップを拡充し、再生技術を高度化してきました。海外展開も早い段階から開始し、現在ではオーストラリア、インドネシア、ザンビアなど12カ国23拠点（関連会社含む）で再生事業を展開しています。

国内では、土浦工場と常陸那珂工場に分散していた再生工場を、2024年10月に兵庫県にある播州工場に集約・統合し、再生事業のマザー工場として、グローバル連携を強化しました。集約・統合によってスペース制約を改善し、再生部品の取扱量を増やし、水没した機械や中古車を買い取り、再生部品を活用して新車同等の機能に再生して販売する、本体再製造にも取り組んでいます。長期間稼働した超大型油圧ショベルの本体再製造にも取り組み、ザンビアをはじめ、インドネシア、南アフリカ、トルコなど、海外の複数の拠点で展開しています。

資源循環型経済の実現に貢献する取り組みの一環として、日本で

は、使用済みの作動油を再生する技術を開発し原材料である原油の消費を低減、再生した作動油を用いて再び中古車として市場に供給する取り組みも行っています。

Column

2024年10月には、当社の関連会社であるユーラシアンマシナリー社が、カザフスタンのカラガンダ地区にある鉱山機械の修理センターを機能強化し、日立建機認定の部品再生工場として稼働を開始しました。中長期的に成長を見込む中央アジア地域において再生部品を活用することでリードタイムを短縮し、資源循環型ビジネスモデルの確立をめざします。



開所式のテープカット（左から日立建機 執行役常務 マイニングビジネスユニット長 福西栄治、ユーラシアン マシナリー社 Kemal Cetinelli 社長）



カザフスタン共和国に開設したコンポーネント再生工場

■レンタル・中古車

日立建機では1996年に日本でレンタル事業を開始して以来、欧州、北米、中国、豪州、インドと着実に提供エリアを広げ、成長を続けてきました。2017年度からは海外で「PREMIUM RENTAL」ブランドの展開を開始しました。日立建機グループと販売代理店がレンタル資産の保有者となり、お客さまにレンタルで提供した後、きめ細かく整備した建設機械を「PREMIUM USED」（保証付き中古車）として再販します。適切なメンテナンスを経て販売された中古車は、部品再生やファイナンスなどバリューチェーンでのサービスを継続して提供できるため、製品の長寿命化につながり、お客さまにとってのライフサイクルコスト低減はもちろん、地球環境保全にも貢献することができます。

再販する個々の機械についても新車と同様に「ConSite」を活用した効率的な予防保全・メンテナンスを提供し、それらの履歴や機械の状態に基づいて整備を行う「PREMIUM USED」として展開することで、長く価値を維持します。車体稼働年数の長期化をめざし、資源循環型ビジネスへの転換を図っていきます。

事業戦略

■スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス

主として鉱山機械向けのアフターセールスにおける部品・サービス事業（消耗部品の製造・販売）を行うBradken社と、鉱山機械に関わるサービスソリューション（アフターサービス）を提供するH-E Parts社の事業で構成されます。

Bradken社は2024年に、鉱山現場向け鋳鋼品などを製造するペルーのファンテック社から土地、建屋および一部設備などを取得し、大型ミルライナー^{*}の生産を2026年から開始する予定です。同社は、ハードロックが豊富に採



Bradken社がファンテック社から取得した鋳造工場（ペルー・チルカ市）

掘されるペルーやチリを中心に、世界最大のミルライナー市場である南米の旺盛な需要に応じて、スピーディーに製品を供給し、事業のさらなる拡大をめざしています。

H-E Parts社は2024年12月、鉱山機械コンポーネント再生事業を担うブレーキサプライ社の事業を買収しました。同社が持つ北米の再生拠点、部品倉庫および人材を活用し、米州地域の再生事業体制を強化し、スピーディーかつ効率的にサービス網を広げることで、米州地域での事業規模の拡大を図ります。

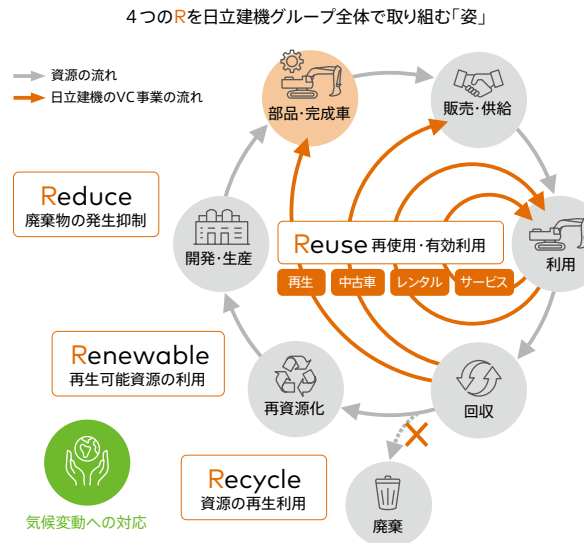
P.52 「H-E Parts社がブレーキ サプライ社の鉱山機械コンポーネント再生事業を買収」参照

^{*} ミルライナー：鉱山現場で採掘された鉱石を粉砕し有用な鉱物を分離する粉砕装置（ミル）の内壁に取り付ける鋳物製の消耗部品

サーキュラーエコノミー（循環型経済）への貢献

日立建機グループは、開発設計を起点にゼロ・エミッションを実現する建設機械の普及に取り組むと同時に、製造プロセスや部品・サービス事業、再生事業、レンタル・中古車事業といったバリューチェーン事業を通じて、廃棄量をさまざまな角度から削減する取り組みを行い、4つのRの活動をグループ全体で推進

日立建機グループがめざす資源循環型ビジネスへの転換



日立建機がサーキュラーエコノミーに取り組む意義

